イメージする“わたし” 感じる“わたし” 造形する“わたし”

いろいろな“わたし”がひとつになって〈造形遊び〉

造形スタジオの入り口で、“今日のプログラム”の説明を聞き、何をつくるか決めます

〔こどもの城〕3階の造形スタジオは、〈造形遊び〉を楽しむスペース。紙をはじめ、木や竹、ねんど、ときには金属などの〈素材〉を使って、いろいろなものを“造形（表現）”します。頭のなかにイメージしたものを、さまざまな〈素材〉、さまざまな〈道具〉、さまざまな〈方法〉を使って、“かたち”にしていきます。このとき、子どもたちはたくさんのことを経験します。

最初に〈素材〉を目にしたとき・手にしたとき、〈道具〉を使って“かたち”を変えていこうとするとき、つなぎあわせようとするとき——重さ、軽さ、かたさ、やわらかさ、あたたかさ、つめたさ、ザラザラ・スベスベ・ツルツルなどの手ざわり、色、つや、かがやき——さまざまなことを手や目、耳などの五感をとおして感じ取ります。〈素材〉から感じとったことは、イメージを“造形（表現）”していくときに、たくさんのアイデアをあたえてくれます。

イメージする“わたし”、感じる“わたし”、造形する“わたし”——いろいろな“わたし”がひとつになって、〈造形遊び〉を楽しむのが造形スタジオの活動です。

こどもの城の造形遊び

いろいろな〈素材〉を〈素材〉に適した〈技法〉を使って“造形（表現）”していく「オープンスタジオ」

造形スタジオのワークショップのひとつに「オープンスタジオ」があります。いろいろな〈素材〉を、〈素材〉に適した〈技法〉を使って“造形（表現）”していくことを楽しむプログラムです。春から夏休みにかけては、“動物（アニマル）”を題材にして、紙や金属、布、ビニールなどの〈素材〉を使って、それぞれの〈素材〉の性質を生かした造形遊びをしています。夏休みは〈造形 アニマル・パラダイス〉です。

ライオン、きりん、へび、いぬ、ねこ——子どもたちは、いろいろな“動物（アニマル）”を作ります。一人ひとりの個性があるので、同じライオンでも強いライオン、かわいらしいライオン、やさしいライオンなど、いろいろなライオンになります。

使う〈素材〉によっても、ちがってきます。真新しいビーンとした紙は、少しぐらい丸めても、元にもどろうとします。グシャグシャにもんで丸めてしまうと、丸まった形のままになります。紙には、いろいろな“顔”があります。しわくちゃになった紙は、やわらかく、布のような手ざわりになります。丸めて、いろいろな形にすることもかんたんです。“やわらかい感じ”を生かした作品を作りたくなります。ビーンとした紙なら、箱のようなものを思いうかべるかもしれません。

私たち一人ひとりの個性、〈素材〉のもっている性質、作ろうしているもの——いろいろな要素が組み合わさって、“造形（表現）”になります。「オープンスタジオ」は、いろいろな組み合わせを体験して、身の回りにあるいろいろなものを“感じ”、イメージを“造形（表現）”する楽しさ、おもしろさを体験する〈造形遊び〉のプログラムです。

手のりビニマル（8月1～14日／親子）

すきとおった色つきのビニールと、両面りなどに使うエアクッションを使います。どちらも“軽さ”という性質があります。エアクッションには、小さな空気のかたまりがたくさんあるので、押すと反発します。ビニールでぴったりとくるむと、表面が風船のように“ふくらんだ感じ”になります。“軽さ”と“ふくらみ”がポイントです。

エアクッションを丸めて、セロハンテープでとめながら、動物の形につくっていきます。新聞紙を丸めてつくるように、思いどおりの形になりませんが、ちょっと“ふくらんだ感じ”が、かわいらしい印象。リアルな動物ではなく、とくちょうをとらえ、それを生かした動物になるようです。手足や目をつけ、輪ゴムをつけると完成です。

加工する〈素材〉にあわせていろいろな“道具”を使いわけイメージしたものに近づけていく

〈素材〉を加工＝形を変えるときには、“道具”を使います。“はさみ”という道具も、切る〈素材〉＝用途によって、たちばさみ（さいほう用）、キッチンばさみ、工作用はさみ、植木ばさみなどたくさんの種類があります。穴をあけるドリルも、金工用と木工用があります。接着剤は、紙、木、タイル、プラスチック、皮、布用など、たくさんの種類があります。

加工する〈素材〉にあわせて、いろいろな“道具”を使うのも「オープンスタジオ」の楽しさのひとつ。アルミニウムや銅の板を木づちでたたいて、立体的な形をつくることもできます。たがねという“道具”を使って、金属の表面にいろいろなもようをえがくこともできます。木は、のこぎりで好みのかたちに切ることができます。糸のこを使えば、曲線も切り出すことができます。ザラザラした感じがいやなら、やすりでみがいてツルツルした表面にすることもできます。

いろいろな“道具”を使うことで、〈素材〉のかたちを変え、イメージしたものに近づけていきます。〈素材〉を加工していくときにも、いろいろな発見をします。頭のなかのイメージがはっきりしていったり、こんなこともできそうだとイメージが広がっていったり——“造形（表現）”することの楽しさが増していきます。

親子コーナーでは、小さい子でも“造形（表現）”しやすいように、加工しやすい〈素材〉を選んでいます。子どもたちだけで作るクリエイティブコーナーでは、のこぎり、ドリル、はんだごてなどの“道具”を使って加工する〈素材〉を使います。

アニマルレリーフ（8月15～31日／小3～）

うすく、細長い木の板と小枝などの“木”を〈素材〉としたプログラム。板の上に、さまざまな形の〈素材〉を組み合わせて動物を作り、くぎや接着剤でとめていきます。くぎの頭なども、もようとして生かします。木を切るのは、のこぎりだけなので、切り口は直線、三角や台形など、多角形の〈素材〉を組み合わせます。丸い形は……小枝を輪切りにします。

動物の体には、たくさんの曲線がありますが、「アニマルレリーフ」では、のこぎりで切った“直線”の組み合わせで“造形（表現）”します。

金アミマル（8月1～14日／小3～）

細い針金で編んである“金あみ”は、金属の板や棒とちがって、丸めたり、のばしたり、縮めたり——が、かんたんにできます。曲げられたところは、そのままの形が保たれます。金属なのに、形が作りやすいという性質があります。

金あみの切り口は、けがをしないように、折り返して金づちでたたいておきます。体と頭の2つに分けて作り、最後に組み合わせて、かざりをつけます。アルミ線などでいろいろな部品をつなぎあわせるので、ラジオペンチなどの“道具”を使います。

全身が“あみ”になっているので、向こう側が見える、押さえてみるとクッションのように押し返してくる——ちょっと変わった“金属”の一面を生かした“造形（表現）”が楽しめます。

アニマル帽（8月15～31日／親子）

紙という〈素材〉は、色、厚さ、かたさ、大きさなど、たくさんのバリエーションがあります。どの性質を生かすかによって、プログラムも変わります。

「アニマル帽」では、子どもがかぶれる、動物のお面をした帽子を作ります。紙をもんでやわらかくして、動物のお面を作りやすくします。